



NO. 992
2014. 10. 26
発行所
日本共産党
網走市委員会
網走市北八西三
四三二四四五八
F 四三二四四五七



日本共産党の松浦さとし議員が反対討論

議員定数削減案が強行される！

網走市議会第3回臨時会が20日に開かれ、9月議会で継続審査となっていた議案第12号 網走市議会議員定数を16名に削減する条例案が可決されました。

反対討論の要旨

議員定数については、8月27日の議会運営委員会で集中審議をし、9月5日には「削減すべきの意見と民意を市政に反映させるために現状維持が必要」との意見に分かれ合意に至らなかったが、今期中に結論を出すことを確認しました。そして、七夕委員長が9月9日の本会議に中間報告をし、全議員の了承を得ています。

削減案は、その3日後に提出されたのですが、自ら決めた決定を無視して中間報告を覆す行動をとることは、議会の自殺行為であり、網走市議会の歴史に汚点を残すものです。その中に議会運営委員長・副委員長をはじめ5名の議会運営委員がいることは極めて遺憾です。とりわけ委員長・副委員長は中間報告を取りまとめた責任があり、自らつくった中間報告を覆す内容の条例案に賛同することは、責任を放棄で議会ルールを踏みこむものであります。

議員が減ることで、行政をチエツクする機能が大きく低下し、同時に、住民の声が市政に届きづらくなります。市民が求めているのは、議員が市民の期待に応えるような議会活動をしていないことへの批判です。今やるべきは、市民の期待に応える活動ではないか。日本共産党は、定数削減ではなく、議会視察の削減や議員歳費を削減して、現在の定数を維持すべきと考えています。

削減案は、議長の諮問を受けた中間報告をないがしろにするルール無視であり、多数であれば何でもできるという態度は、議会制民主主義に反する暴挙と言わざるを得ないものです。日本共産党議員団として、怒りをもって反対の立場を表明して討論と致します。



松浦さとし議員奮戦も

議員定数削減案が20日に可決されましたが、なぜか賛成討論がありませんでした。こんな大事な問題を議員定数を削減すれば議員の質が高くなる」といつていた議員が、賛成討論もしないとは驚きです。コンパクトで効率的な議会とも言っていましたから、その意味では賛成討論をしないというのは、効率的なのかもしれません。が理解しがたい態度です。

定数が16名になって、多数の意見だとして今回のように議会ルールを無視するような議会にはなりません。

いよいよ東奔西走

議員定数が4人削減された。中間報告を無視しての削減条例提出は議会ルールを踏みこむ暴挙でした。

先週の議会運営委員会から議会基本条例案が審議されていますが、19条の議員定数で「市民の意見」を十分に考慮するとあり、その解説では、「参考人制度や公聴会制度などを活用して、聴取、集約した市民の見解を指す」とあります。

市民の声を受け削減したと言う彼らもこの条例作成に関与しました。しかし、4人削減について市民への説明会などは一切ありませんでした。

菊地ひろし まっしぐら

共産党市議団は今、「市民アンケート」への協力を呼びかけています。市民のみならずの実情や要望を議会へ届け、市政に活かすために行っています。

今回の回答は早くから、また全ての年代から寄せられているのが特徴です。しかもほとんどの方が「生活が苦しくなった」と回答しています。先日伺った方は、「生きていくのが嫌になった」と話してくれました。

アベノミクスで物価が上がり、輸入原材料は高騰して、暮らしも経営も苦しくなっています。消費税の増税が重くのしかかります。

先上がった「これ以上の増税は許さない」の市民の請願に応じてこそ市民の議会ではないでしょうか。

流水

10月18日に「女性センターフェスティバル」南海放送制作のDVD「ワシも死の海におった」を観た▼1954年3月1日、アメリカがビキニ環礁でおこなった水爆実験

で死の灰を浴び、第5福竜丸の久保山愛吉さんが放射能症のため死亡したビキニ事件▼けれども当時ビキニ環礁で被災した漁船は、のべ1000隻もあり、たくさんの漁船員が被爆▼その事実を「黙っていてはいけない」と何十年も調査し続けている元高校教師の山下正寿さん▼「原爆の火を見た」「太陽の何倍も大きかった」「白い灰が大量に空から降ってきた」と生々しい証言が続く。また風評被害を恐れて口を閉ざしてきた地元四国の証言もある▼南海放送が取材中に発見した米原子力委員会の機密文書では放射能を帯びた偏西風が日本中をすっぽりと包みこむ映像や汚染した海流が実験からふた月もたつて日本に到達した資料映像も▼観終わった後、館内の女性セクターフェスティバルの様子をのぞくと丹精込めて作られた編み物や皮革の美しい作品や絵手紙のコーナーでは会場狭しと作品が並び、訪れた参加者が楽しそうに絵手紙に挑戦している様子▼下の階で美味しい炊き込みご飯やすり身汁を友人達といただきながら「普通の暮らしを楽しみたいわう」ことの大切さを思わずにはいられませんでした。(た)

※最近になって厚労省が「被爆に関する資料は無い」と言ってきた資料を公開しました。(赤旗9月20日)